



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：イラン核問題に関するモサド（イスラエル秘密情報局）長官の見解
（7日、10日付ハアレツ紙）

1. 6日、8年余りの任期を終えて退任したメイル・ダガン前モサド長官は、クネセット（議会）の外交防衛委員会に対し「イランの核兵器製造までの道のりは遠い」「イランの核開発計画は、相次ぐ技術的不調により数年遅延した」「イランは2015年頃まで核爆弾を手にすることはないだろう」と述べた（7日付）。
2. ウィキリークスによれば、ダガン前長官は米政府高官に対し、イランの核開発計画を止めるためには、経済制裁の強化、核開発計画に要する物資の対イラン輸出阻止、秘密裏の戦争（covert warfare）、ならびにイラン体制転覆のための少数派および反政府グループへの支援が必要であると述べていた（7日付）。
3. ダガン前長官は、過去様々な機会に、イスラエルが戦争に訴えるべき場合は、攻撃を受けた場合と生存への急迫の危機に直面した場合に限られると述べている（中東調査会注：この部分に関し、ダガン前長官は、イスラエルによる現段階での対イラン軍事攻撃に消極的であると一般に受け止められている）（7日付）。
4. 9日、湾岸諸国歴訪のためアブダビに到着したクリントン米国务長官は、ダガン前長官の発言に関し「イランが核兵器を追求しないよう国際社会が努力している中で、時間軸（timeline）は重要ではない」「時間的猶予が1年なのか3年なのかによって、湾岸諸国やイランが破壊を誓っている国（イスラエル）の誰かが慰められるとは思わない」と述べた（10日付）。
5. クリントン長官は、対イラン制裁に関し、「イランは制裁を逃れる方策を絶えず探しているため、我々は圧力をかけ続けなければならない」「我々の制裁に向けた努力が、誰かの情報分析によって誤導されないことを望んでいる」と述べた（10日付）。